愛知県の発生農場に係る疫学調査チームの調査結果概要
（平成２３年１月２７日）

本日実施した現地調査の結果、以下のことを確認した。

１　発生農場の周辺環境

①　発生農場の周囲は野菜畑及び住宅地に囲まれており、カラスやツグミ等の森林草地性の鳥が生息していた。

②　発生農場から約 600 ｍの場所に溜め池があり、カモ類やキンクロハジロが 50 羽程度確認された。

２　従業員

①　従業員に最近の海外の渡航歴はなく、野鳥の飛来地を訪れたこともなかった。さらに、従業員に対しては、愛玩鳥を飼養しないよう指導している。

②　鶏舎への出入りの際は専用の作業着及び長靴への交換を行っており、踏込消毒も実施していた。

３　鶏舎の飼養衛生管理

①　飼料タンクは蓋がされており、野鳥の接触や糞の混入の可能性は低いものと考えられた。

②　鶏糞処理については、鶏舎内で一次発酵後、敷地内の堆肥盤で完熟させ、敷地外へ搬出していた。

③　鶏への飲用水は、井戸水（浅井戸）を利用していた（消毒済）。

④　飼料は、ほぼ毎日搬入されるが、飼料運搬車両は敷地内に入らなかった。

４　野鳥・害獣対策

高床式のウインドウレス鶏舎であり、野鳥が容易に侵入できる構造ではなかったが、一階の側壁にネズミ等の小動物が侵入できるようなパイプを通す穴や壁の破損箇所がいくつか見られた。また、二階のケージと一階の境（ケージからの糞便を一階に落とす穴）にネットが張られていなかった。